

さよなら 思い出の学び舎

● 花和小学校で閉校式 ●



最後の花和小学校児童ら

明 治の時代から103年の歴史を誇った花和小学校（斉藤茂校長）が、4月から洞爺湖温泉小学校に統合されることになり、3月18日、閉校式が在校生、卒業生、地域の人の約200人が出席して行われました。

式典では、長崎町長が「この学校での思い出を忘れず、新しい学校に早く慣れ、楽しい学校生活を送ってください」と挨拶。その後、来賓の挨拶が続き、最後に児童らが「記念樹」を歌い、長い歴史を振り返りながら「閉校は終わりではなく、未来に向けて行くスタートです」と決意を披露。溢れる思い出をめぐらしながら、出席者全員で校歌を斉唱し、学校に別れを告げました。

■ 斉藤茂校長先生

「さびしい限りです。花和小学校で学んだことを活かして、新

しい学校では新風をふかせてください」

■ 佐藤明博くん（6年生）

「閉校にならないほうがよかったです。お祭りや雪上レクリエーシ

31年の歴史に幕を降ろす

虻田高校普通科 閉科式

2 月28日、虻田高校阿部諭校長で、31年間続いてきた普通科の閉科式が行われ、全校生徒137人と教育関係者らが見守る中で、長い歴史の幕を降ろしました。

同科は、強い地元の要望で昭和51年、全日制1学級を新設し、ピーク時には3学級開設していました。

しかし、小子化などの影響で年々生徒の減少が続き、平成17年についに募集停止。約1、700人が巣立った同科も、今春の卒業生6人が最後となり、閉科に至りました。

式典では、阿部校長が「伝統を失わず、今後も地域から信頼される学校でありたい」とあいさつ。普通科の卒業生を代表して、市橋伸洋君が「虻田高の伝統を

ヨンなど思い出がいっぱいです」

■ 小山翔太郎くん（6年生）

「悲しいけどしょうがない。一つひとつの行事が思い出になっています」

忘れず、前向きに生きていきたい」と決意を述べ、最後に全員で校歌を歌い、式典を終えました。



普通科最後の卒業生